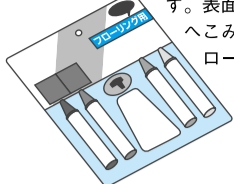


家のお手入れ

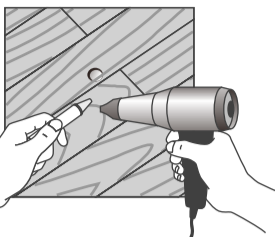


へこみ傷や深い引っ掻き傷の場合

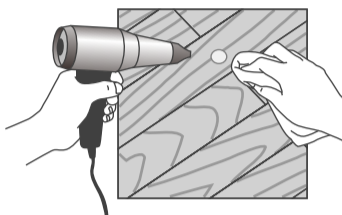
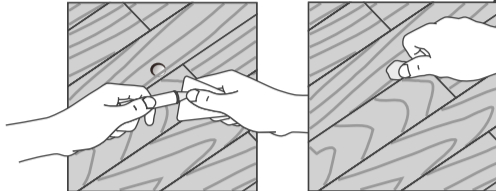
熱で溶かして使うロウタイプのフローリング用補修剤が便利。これは4色セットで付属のヘラが付いているものとバラ売りのものがあります。表面のニスコーティングが破けていない程度のへこみならば補修剤のナチュラル色を、深い傷でフローリングの色が濃い場合は合う色を選んで使います。調色する場合は、スプーン等に入れ、下からライターで熱を加え、楊枝などで混ぜ合わせてください。



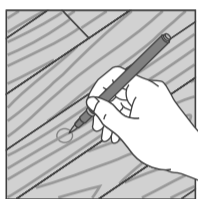
1 補修剤をドライヤーなどで温めて柔らかくする。



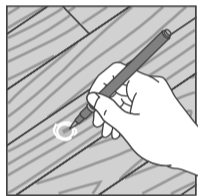
2 柔らかくなったら付属のヘラの先で補修剤を少し取り、へこみ部分に指先でギュッと押し付けて埋め込む。



3 ドライヤーの温風を当ててさらに柔らかくし、ヘラでさらに埋め込んでから余分な補修剤をすき取り、平らになったら、ドライヤーを軽く当てながら、乾いたタオルなどで磨き混む。



4 補修剤の白濁した色が気になる場合は、床の色に合ったフローリング専用の着色補修剤で塗って仕上げるとよい。



※傷が深く、化粧板がはがれて傷口が白くなっているときは、フローリングの色に合う着色補修剤で傷に色をつけてから、フローリングの色に合わせた補修剤で埋めるようにするとよいでしょう。ただ、深い引っ掻き傷の場合は状況によっては目立たなくさせることが難しいこともあります。

フローリングの手入れ

Part 1
手入れのコツと傷の修繕

One Point Advice

家具による傷の防止策

フローリングの傷は、目立たなくさせることはできますが、完全に修繕することはできません。できるだけ、傷をつけないように注意しましょう。

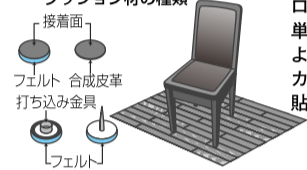
●テーブルやイスの足
フェルトや合成皮革に粘着加工した家具脚用床のクッション材を貼っておくと便利。貼る面の汚れを落とし、木の脚ならば240番くらいのサンドペーパーをかけ、平らに仕上げたから貼るとズレにくくなります。また、木のイスやテーブルなら脚の裏に金づちで打つ込むタイプもあります。脚が角の場合も、その角の中におさまる大きさの丸を選んで取り付けてください。



●家具の移動

大掃除や模様替えなどで家具を移動する際は、フッ素樹脂製のカグスベール重量用を家具の下2カ所にはさみ込み、片方を持ち上げて動かすとフローリングに傷をつけず、簡単に移動することができます。よく動かす家具には粘着式のカグスベール(丸型・角型)を貼っておくと便利です。

家具脚用床のクッション材の種類



フローリングの手入れ

フローリングは手入れを怠るとツヤがなくなり、そのうち汚れが染み込んで、元のきれいな状態に戻せなくなります。それを防止するには、ワックスか床用ニスを塗って、表面を被膜で保護してやる必要があります。その上での日常の手入れは、ホコリを取るが基本。掃除機をかけてから、乾いた布で拭きするとよいでしょう。ペーパーモップを使うと、かがまずに拭き掃除ができ、髪の毛なども吸収してくれるうえ、汚れたらシートが交換できるので便利です。床面が汚れてきたら、かたく絞ったぞうきんで水拭きするか、住宅用弱アルカリ性洗剤を使うときれいになります。ただ、樹脂系ワックスを塗っている床を頻りに洗剤拭きすると塗り替えのサイクルを早めるので注意してください。



ペーパーモップ

ワックスの種類

家庭で使うには、液状で簡単に塗れる樹脂系ワックスがおすすめ。しかもロウタイプより滑りにくいので安心です。フローリング専用のタイプと、クッションフロア、Pタイルにも使える万能タイプがありますが、フローリングにはどちらを使ってもあまり大差はありません。また最近は、ツヤ消しのフローリング用のツヤで出ないワックスも発売されています。塗り替え時期は商品によって異なりますが、ほとんどのものは4~6カ月に1度が目安です。もっと長期間、保護被膜を持たせたい場合は、床用ニスを塗るのがおすすめ。樹脂系ワックスよりもしっかりとした被膜を作るので、1~2年に1度の塗り替えで済み、洗剤拭き、水拭きも心置きなくできます。塗り方は「No.22フローリングの手入れ Part 2 (床用ニスの塗り方)」をご覧ください。

塗り替えの目安

4~6ヶ月に1度

1~2年に1度

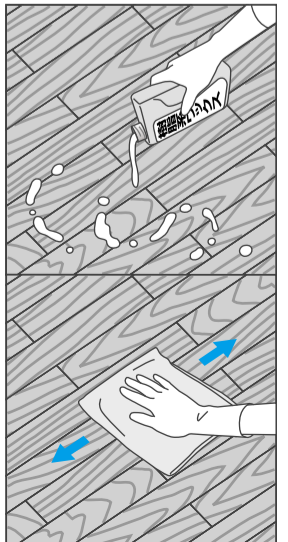


樹脂系ワックスの塗り方

1 洗剤拭きをする
ゴミや汚れを洗剤拭きして乾かす。特に油汚れを残したままワックスを塗ると乾いてもベタベタするので、台所の床などは油汚れ専用の洗剤できちんと掃除しておくように。

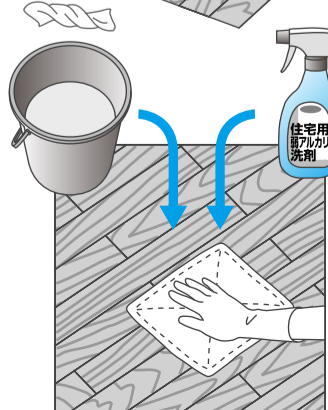


2 樹脂系ワックスを塗る
畳半分くらいの面積にワックスをボタボタ落とし、すぐにきれいな水でかたく絞った布で軽く塗り広げる。部屋の隅から塗り始め、塗り終わりが出入り口になるように、全体をムラなく塗る。乾燥時間はワックスによって異なるが、だいたい20~30分。完全に乾いたらもう一度塗って2度塗りですっきりとした保護膜になる。



汚れを落としてツヤを出すタイプの使い方

床面にスプレーして布で拭くだけで、界面活性剤で汚れを落とし、樹脂成分でツヤを出すタイプもあります。これらは樹脂系ワックスに比べ、保護被膜が薄いので、これだけでフローリングの手入れをする場合は、2~3週間に一度塗り替えることが必要です。それより樹脂系ワックスを塗った床の補助として使うと効果的。全体、あるいはよく歩く場所やイスかテーブルのまわりなど、磨耗しやすい場所の使うとツヤが出るうえ、ワックスの皮膜も長持ちさせられます。

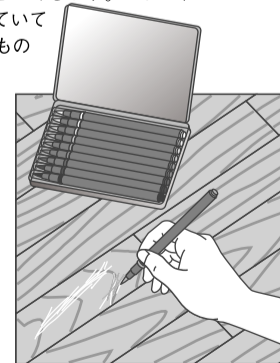


フローリングの傷の修繕

浅い傷の場合

こすれてできた傷や浅い引っ掻き傷程度なら、家具やフローリング専用の着色補修剤で目立たなくさせることができます。これは、アルコール系の着色剤で、筆ペンタイプになっていて10色セットのものに、バラ売りのものがあります。

1 クリヤー(透明)色を選び、傷の上に木目に沿って塗る。表面についた浅い傷なら、これだけでかなりわからなくなる。



2 クリヤーを塗っても傷が目につく場合は、傷部分より少し薄い色を選んで、隅の目立たない場所で試し塗りをしてから、クリヤーを塗った上に塗り重ねる。

3 傷で木目が分断されているときは、濃い色を選んで木目を描き込むとよい。

